

平成28年度 九州大学2次試験前期日程(数学問題)150分  
理系(経済(経工), 理, 医, 歯, 薬, 工, 芸工, 農学部)

1 座標平面上の曲線  $C_1$ ,  $C_2$  をそれぞれ

$$C_1 : y = \log x \quad (x > 0)$$

$$C_2 : y = (x - 1)(x - a)$$

とする。ただし,  $a$  は実数である。 $n$  を自然数とすると, 曲線  $C_1$ ,  $C_2$  が2点  $P$ ,  $Q$  で交わり,  $P$ ,  $Q$  の  $x$  座標はそれぞれ  $1$ ,  $n + 1$  となっている。また, 曲線  $C_1$  と直線  $PQ$  で囲まれた領域の面積を  $S_n$ , 曲線  $C_2$  と直線  $PQ$  で囲まれた領域を  $T_n$  とする。このとき, 以下の問いに答えよ。

(1)  $a$  を  $n$  の式で表し,  $a > 1$  を示せ。

(2)  $S_n$  と  $T_n$  をそれぞれ  $n$  の式で表せ。

(3) 極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{S_n}{n \log T_n}$  を求めよ。

2  $t$  を  $0 < t < 1$  を満たす実数とする。面積が1である三角形  $ABC$  において, 辺  $AB$ ,  $BC$ ,  $CA$  をそれぞれ  $2 : 1$ ,  $t : 1 - t$ ,  $1 : 3$  に内分する点を  $D$ ,  $E$ ,  $F$  とする。また,  $AE$  と  $BF$ ,  $BF$  と  $CD$ ,  $CD$  と  $AE$  の交点をそれぞれ  $P$ ,  $Q$ ,  $R$  とする。このとき, 以下の問いに答えよ。

(1) 3直線  $AE$ ,  $BF$ ,  $CD$  が1点で交わるときの  $t$  の値  $t_0$  を求めよ。

以下,  $t$  は  $0 < t < t_0$  を満たすものとする。

(2)  $AP = kAE$ ,  $CR = \ell CD$  を満たす実数  $k$ ,  $\ell$  をそれぞれ求めよ。

(3) 三角形  $BCQ$  の面積を求めよ。

(4) 三角形  $PQR$  の面積を求めよ。

**3** 座標平面上で円  $x^2 + y^2 = 1$  に内接する正六角形で、点  $P_0(1, 0)$  を1つの頂点とするものを考える。この正六角形の頂点を  $P_0$  から反時計まわりに順に  $P_1, P_2, P_3, P_4, P_5$  とする。ある頂点に置かれている1枚のコインに対し、1つのサイコロを1回投げ、出た目に応じてコインを次の規則にしたがって頂点上を動かす。

- (規則) (i) 1から5までの目が出た場合は、出た目の数だけコインを反時計まわりに動かす。例えば、コインが  $P_4$  にあるとき4の目が出た場合は  $P_2$  まで動かす。
- (ii) 6の目が出た場合は、 $x$  軸に関して対称な位置にコインを動かす。ただし、コインが  $x$  軸上にあるときは動かさない。例えば、コインが  $P_5$  にあるときに6の目が出た場合は  $P_1$  に動かす。

はじめにコインを1枚だけ  $P_0$  に置き、1つのサイコロを続けて何回か投げて、1回投げるごとに上の規則にしたがってコインを動かしていくゲームを考える。以下の問いに答えよ。

- (1) 2回サイコロを投げた後に、コインが  $P_0$  の位置ある確率を求めよ。
- (2) 3回サイコロを投げた後に、コインが  $P_0$  の位置ある確率を求めよ。
- (3)  $n$  を自然数とする。 $n$  回サイコロを投げた後に、コインが  $P_0$  の位置ある確率を求めよ。

**4** 自然数  $n$  に対して、 $10^n$  を13で割った余りを  $a_n$  とおく。 $a_n$  は0から12までの整数である。以下の問いに答えよ。

- (1)  $a_{n+1}$  は  $10a_n$  を13で割った余りに等しいことを示せ。
- (2)  $a_1, a_2, \dots, a_6$  を求めよ。
- (3) 以下の3条件を満たす自然数  $N$  をすべて求めよ。
  - (i)  $N$  を十進数で表示したとき6桁となる。
  - (ii)  $N$  を十進数で表示して、最初と最後の桁の数字を取り除くと2016となる。
  - (iii)  $N$  は13で割り切れる。

5 以下の問いに答えよ。

- (1)  $\theta$  を  $0 \leq \theta < 2\pi$  を満たす実数,  $i$  を虚数単位とし,  $z$  を  $z = \cos \theta + i \sin \theta$  で表される複素数とする。このとき, 整数  $n$  に対して次の式を証明せよ。

$$\cos n\theta = \frac{1}{2} \left( z^n + \frac{1}{z^n} \right), \quad \sin n\theta = -\frac{i}{2} \left( z^n - \frac{1}{z^n} \right)$$

- (2) 次の方程式を満たす実数  $x$  ( $0 \leq x < 2\pi$ ) を求めよ。

$$\cos x + \cos 2x - \cos 3x = 1$$

- (3) 次の式を証明せよ。

$$\sin^2 20^\circ + \sin^2 40^\circ + \sin^2 60^\circ + \sin^2 80^\circ = \frac{9}{4}$$

## 解答例

- 1 (1)  $C_1$  と  $C_2$  の交点  $Q$  の  $x$  座標が  $n+1$  であるから

$$\log(n+1) = (n+1-1)(n+1-a)$$

$n \neq 0$  であるから

$$a = n+1 - \frac{\log(n+1)}{n}$$

$$\text{上式より } a-1 = \frac{n^2 - \log(n+1)}{n}$$

$$\text{ここで } \int_0^n \frac{t}{t+1} dt = \left[ t - \log(t+1) \right]_0^n = n - \log(n+1) > 0$$

$$\text{上の2式から } a-1 = \frac{n^2 - \log(n+1)}{n} > \frac{n^2 - n}{n} = n-1 \geq 0$$

よって  $a > 1$

$$\begin{aligned} (2) S_n &= \int_1^{n+1} \log x dx - \frac{1}{2} \{(n+1) - 1\} \log(n+1) \\ &= \left[ x \log x - x \right]_1^{n+1} - \frac{n}{2} \log(n+1) = \frac{n+2}{2} \log(n+1) - n \end{aligned}$$

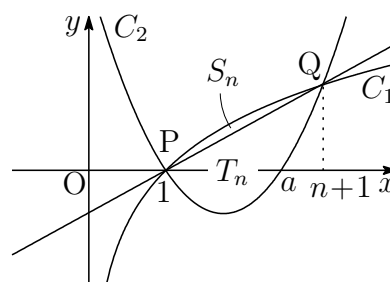
$C_2$  の  $x^2$  の係数および2点  $P$ ,  $Q$  の  $x$  座標に注意して

$$T_n = \frac{1}{6} \{(n+1) - 1\}^3 = \frac{1}{6} n^3$$

- (3) (2) の結果から

$$\begin{aligned} \frac{S_n}{n \log T_n} &= \frac{\frac{n+2}{2} \log(n+1) - n}{n \log \frac{n^3}{6}} = \frac{\left(\frac{1}{2} + \frac{1}{n}\right) \log(n+1) - 1}{3 \log n - \log 6} \\ &= \frac{\left(\frac{1}{2} + \frac{1}{n}\right) \{\log n + \log\left(1 + \frac{1}{n}\right)\} - 1}{3 \log n - \log 6} \\ &= \frac{\left(\frac{1}{2} + \frac{1}{n}\right) \left\{1 + \frac{\log\left(1 + \frac{1}{n}\right)}{\log n}\right\} - \frac{1}{\log n}}{3 - \frac{\log 6}{\log n}} \end{aligned}$$

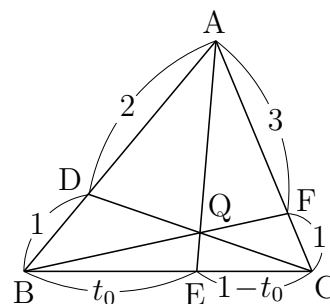
$$\text{よって } \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{S_n}{n \log T_n} = \frac{\left(\frac{1}{2} + 0\right) (1 + 0) - 0}{3 - 0} = \frac{1}{6}$$



- 2 (1) チェバの定理により

$$\frac{BE}{EC} \cdot \frac{CF}{FA} \cdot \frac{AD}{DB} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{t_0}{1-t_0} \cdot \frac{1}{3} \cdot \frac{2}{1} = 1$$

$$\text{これを解いて} \quad t_0 = \frac{3}{5}$$

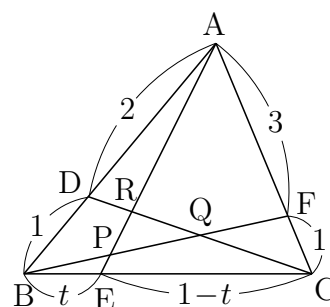


- (2)  $\triangle AEC$  および直線  $BF$  について、メネラウスの定理を適用すると

$$\frac{AP}{PE} \cdot \frac{EB}{BC} \cdot \frac{CF}{FA} \quad \text{ゆえに} \quad \frac{AP}{PE} \cdot \frac{t}{1} \cdot \frac{1}{3} = 1$$

$$\text{したがって} \quad \frac{AP}{PE} = \frac{3}{t}$$

$$\text{よって} \quad k = \frac{AP}{AE} = \frac{3}{3+t}$$



- $\triangle BCD$  および直線  $AE$  について、メネラウスの定理を適用すると

$$\frac{BE}{EC} \cdot \frac{CR}{RD} \cdot \frac{DA}{AB} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{t}{1-t} \cdot \frac{CR}{RD} \cdot \frac{2}{3} = 1$$

$$\text{したがって} \quad \frac{CR}{RD} = \frac{3(1-t)}{2t}$$

$$\text{よって} \quad l = \frac{CR}{CD} = \frac{3(1-t)}{3(1-t) + 2t} = \frac{3(1-t)}{3-t}$$

- (3) (2) の図について、 $\triangle BCF$  および直線  $AE$  について、メネラウスの定理を適用すると

$$\frac{BE}{EC} \cdot \frac{CA}{AF} \cdot \frac{FP}{PB} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{t}{1-t} \cdot \frac{4}{3} \cdot \frac{FP}{PB} = 1$$

$$\text{したがって} \quad \frac{FP}{PB} = \frac{3(1-t)}{4t} \quad \dots \textcircled{1}$$

$$t = \frac{3}{5} \text{ のとき, } P \text{ は } Q \text{ に一致するので} \quad \frac{FQ}{QB} = \frac{1}{2} \quad \dots \textcircled{2}$$

$$\text{よって} \quad \triangle BCQ = \frac{2}{3} \triangle BCF = \frac{2}{3} \cdot \frac{1}{4} \triangle ABC = \frac{2}{3} \cdot \frac{1}{4} \cdot 1 = \frac{1}{6}$$

(4)  $t = \frac{3}{5}$  のとき, R は Q に一致するので, (2) の結果から

$$\frac{CQ}{CD} = \frac{3(1 - \frac{3}{5})}{3 - \frac{3}{5}} = \frac{1}{2}$$

したがって  $CQ : QR = \frac{1}{2} : \frac{3(1-t)}{3-t} - \frac{1}{2} = 3-t : 3-5t$

また, ①, ② から

$$BQ : PQ = \frac{2}{3} : \frac{3(1-t)}{3(1-t)+4t} - \frac{1}{3} = 3+t : 3-5t$$

$\triangle BCQ : \triangle PQR = BQ \cdot CQ : PQ \cdot QR$  であるから

$$\triangle BCQ : \triangle PQR = (3+t)(3-t) : (3-5t)^2$$

(3) の結果から  $\triangle PQR = \frac{1}{6} \times \frac{(3-5t)^2}{(3+t)(3-t)} = \frac{(3-5t)^2}{6(3+t)(3-t)}$

解説  $\vec{b} = \overrightarrow{AB}$ ,  $\vec{c} = \overrightarrow{AC}$  とおくと

$$\overrightarrow{AQ} = \frac{\overrightarrow{AB} + 2\overrightarrow{AF}}{2+1} = \frac{\vec{b} + 2 \cdot \frac{3}{4}\vec{c}}{3} = \frac{1}{3}\vec{b} + \frac{1}{2}\vec{c}$$

$$\overrightarrow{AP} = k\overrightarrow{AE} = \frac{3}{3+t}\{(1-t)\vec{b} + t\vec{c}\}$$

$CR : RD = 3(1-t) : 2t$  であるから

$$\overrightarrow{AR} = \frac{2t\overrightarrow{AC} + 3(1-t)\overrightarrow{AD}}{3(1-t) + 2t} = \frac{1}{3-t}\{2(1-t)\vec{b} + 2t\vec{c}\}$$

したがって  $\overrightarrow{QP} = \frac{3-5t}{6(3+t)}(4\vec{b} - 3\vec{c})$ ,  $\overrightarrow{QR} = \frac{3-5t}{6(3-t)}(2\vec{b} - 3\vec{c})$

これらを空間ベクトルと考え, 外積の性質を用いると<sup>1</sup>

$$\overrightarrow{QP} \times \overrightarrow{QR} = -\frac{(3-5t)^2}{6(3+t)(3-t)}\vec{b} \times \vec{c}$$

よって  $\triangle PQR : \triangle ABC = \frac{(3-5t)^2}{6(3+t)(3-t)} : 1$

外積は高校数学の範囲外であるから, 2次試験では使えないが, センター試験では, 非常に有効な計算法である. なお, 外積(ベクトル積)の演算について, 次式が成り立つことに注意したい.

$$\vec{b} \times \vec{c} = -\vec{c} \times \vec{b}$$

また, これに  $\vec{c} = \vec{b}$  を代入すると  $\vec{b} \times \vec{b} = \vec{0}$

<sup>1</sup>[http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai\\_ri\\_2004.pdf](http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_ri_2004.pdf)

- 3** (1)  $n$  回サイコロ投げた後に、コインが  $P_i$  ( $i = 0, 1, \dots, 5$ ) の位置にある確率を  $P_i(n)$  とすると

$$\begin{aligned} P_0(n+1) &= \frac{1}{6}P_0(n) + \frac{1}{6}P_1(n) + \frac{1}{6}P_2(n) + \frac{1}{6}P_3(n) + \frac{1}{6}P_4(n) + \frac{1}{6}P_5(n) \\ &= \frac{1}{6}\{P_0(n) + P_1(n) + P_2(n) + P_3(n) + P_4(n) + P_5(n)\} \end{aligned}$$

自然数  $n$  に対して  $P_0(n) + P_1(n) + P_2(n) + P_3(n) + P_4(n) + P_5(n) = 1$

したがって  $P_0(n) = \frac{1}{6} \times 1 = \frac{1}{6} \quad \dots (*)$

よって、求める確率は  $\frac{1}{6}$

(2) (\*) より、求める確率は  $\frac{1}{6}$

(3) (\*) より、求める確率は  $\frac{1}{6}$

解説  $P_i(n+1)$  は  $P_j(n)$  によって決定する確率過程 (マルコフ連鎖) である.

$$P_0(n+1) = \frac{1}{6}\{P_0(n) + P_1(n) + P_2(n) + P_3(n) + P_4(n) + P_5(n)\}$$

$$P_1(n+1) = \frac{1}{6}\{P_0(n) + P_2(n) + P_3(n) + P_4(n) + 2P_5(n)\}$$

$$P_2(n+1) = \frac{1}{6}\{P_0(n) + P_1(n) + P_3(n) + 2P_4(n) + P_5(n)\}$$

$$P_3(n+1) = \frac{1}{6}\{P_0(n) + P_1(n) + P_2(n) + P_3(n) + P_4(n) + P_5(n)\}$$

$$P_4(n+1) = \frac{1}{6}\{P_0(n) + P_1(n) + 2P_2(n) + P_3(n) + P_5(n)\}$$

$$P_5(n+1) = \frac{1}{6}\{P_0(n) + 2P_1(n) + P_2(n) + P_3(n) + P_4(n)\}$$

したがって  $P_0(n) = P_3(n) = \frac{1}{6}$ ,

$$P_1(n+1) - P_5(n+1) = -\frac{1}{3}\{P_1(n) - P_5(n)\},$$

$$P_2(n+1) - P_4(n+1) = -\frac{1}{3}\{P_2(n) - P_4(n)\}$$

$P_1(1) = P_2(1) = P_4(1) = P_5(1) = \frac{1}{6}$  より  $P_1(n) = P_5(n)$ ,  $P_2(n) = P_4(n)$

これらの結果から  $P_1(n+1) = P_2(n+1) = \frac{1}{3}\left\{P_1(n) + P_2(n) + \frac{1}{6}\right\}$

ゆえに  $P_1(n+1) = \frac{2}{3}P_1(n) + \frac{1}{18}$

$P_1(1) = \frac{1}{6}$  であるから  $P_1(n) = \frac{1}{6}$  よって  $P_i(n) = \frac{1}{6}$  ( $i = 0, 1, \dots, 5$ )

**4** (1) 仮定から  $10^n \equiv a_n, 10^{n+1} \equiv a_{n+1} \pmod{13}$

第1式から  $10^{n+1} \equiv 10a_n \pmod{13}$

したがって  $a_{n+1} \equiv 10a_n \pmod{13}$

(2)  $10^1 = 10$  より  $a_1 = 10$

(1)の結果を用いると、法13について

$$a_2 \equiv 10a_1 \equiv 100 \equiv 9$$

$$a_3 \equiv 10a_2 \equiv 90 \equiv 12$$

$$a_4 \equiv 10a_3 \equiv 120 \equiv 3$$

$$a_5 \equiv 10a_4 \equiv 30 \equiv 4$$

$$a_6 \equiv 10a_5 \equiv 40 \equiv 1$$

よって  $a_2 = 9, a_3 = 12, a_4 = 3, a_5 = 4, a_6 = 1$

(3) 整数  $p, q$  を  $1 \leq p \leq 9, 0 \leq q \leq 9$  とし、求める自然数  $N$  を

$$N = p \cdot 10^5 + 2 \cdot 10^4 + 10^2 + 6 \cdot 10 + q$$

とおくと、法13に関して

$$N \equiv p \cdot 10^5 + 2 \cdot 10^4 + 10^2 + 6 \cdot 10 + q$$

$$\equiv p \cdot 4 + 2 \cdot 3 + 9 + 6 \cdot 10 + q = 4p + q + 75$$

$$\equiv 4p + q - 3$$

このとき、 $N \equiv 0 \pmod{13}$  を満たす整数  $(p, q)$  の組は

$$(p, q) = (2, 8), (3, 4), (4, 0), (5, 9), (6, 5), (7, 1), (9, 6)$$

よって、求める自然数  $N$  は

$$\mathbf{220168, 320164, 420160, 520169, 620165, 720161, 920166}$$



5 (1) ド・モアブルの定理により

$$z^n = \cos n\theta + i \sin n\theta, \quad \frac{1}{z^n} = \cos n\theta - i \sin n\theta \quad \cdots (*)$$

(\*) の辺々を加えると

$$z^n + \frac{1}{z^n} = 2 \cos n\theta \quad \text{ゆえに} \quad \cos n\theta = \frac{1}{2} \left( z^n + \frac{1}{z^n} \right)$$

(\*) の辺々を引くと

$$z^n - \frac{1}{z^n} = 2i \sin n\theta \quad \text{ゆえに} \quad \sin n\theta = -\frac{i}{2} \left( z^n - \frac{1}{z^n} \right)$$

(2) (1) の結果から

$$\cos x = \frac{1}{2} \left( z + \frac{1}{z} \right)$$

$$\cos 2x = \frac{1}{2} \left( z^2 + \frac{1}{z^2} \right) = \frac{1}{2} \left( z + \frac{1}{z} \right)^2 - 1$$

$$\cos 3x = \frac{1}{2} \left( z^3 + \frac{1}{z^3} \right) = \frac{1}{2} \left( z + \frac{1}{z} \right)^3 - \frac{3}{2} \left( z + \frac{1}{z} \right)$$

$t = z + \frac{1}{z}$  とおくと

$$\cos x = \frac{1}{2}t, \quad \cos 2x = \frac{1}{2}t^2 - 1, \quad \cos 3x = \frac{1}{2}t^3 - \frac{3}{2}t$$

これらを  $\cos x + \cos 2x - \cos 3x = 1$  に代入すると

$$\frac{1}{2}t + \frac{1}{2}t^2 - 1 - \left( \frac{1}{2}t^3 - \frac{3}{2}t \right) = 1$$

整理すると  $t^3 - t^2 - 4t + 4 = 0$  ゆえに  $(t-1)(t+2)(t-2) = 0$

これを解いて  $t = 1, -2, 2$  したがって  $\cos x = \frac{1}{2}, -1, 1$

$0 \leq x < 2\pi$  であるから  $x = 0, \frac{\pi}{3}, \pi, \frac{5}{3}\pi$

(3) (1) の結果から

$$\sin^2 n\theta = \left\{ -\frac{i}{2} \left( z^n - \frac{1}{z^n} \right) \right\}^2 = \frac{1}{2} - \frac{1}{4} \left( z^{2n} + \frac{1}{z^{2n}} \right)$$

$\theta = 20^\circ$  とすると,  $z^{18} = 1$  であるから

$$(z^2 - 1)(z^{16} + z^{14} + \cdots + z^2 + 1) = 0$$

$z^2 \neq 1$  であるから  $z^{16} + z^{14} + \cdots + z^2 + 1 = 0$

また,  $z \neq 0$  であるから  $\sum_{n=1}^4 \left( z^{2n} + \frac{1}{z^{2n}} \right) = -1$

$$\begin{aligned} \text{したがって} \quad \sum_{n=1}^4 \sin^2 n\theta &= \sum_{n=1}^4 \left\{ \frac{1}{2} - \frac{1}{4} \left( z^{2n} + \frac{1}{z^{2n}} \right) \right\} \\ &= 4 \times \frac{1}{2} - \frac{1}{4} \sum_{n=1}^4 \left( z^{2n} + \frac{1}{z^{2n}} \right) \\ &= 2 - \frac{1}{4} \times (-1) = \frac{9}{4} \end{aligned}$$

$$\text{よって} \quad \sin^2 20^\circ + \sin^2 40^\circ + \sin^2 60^\circ + \sin^2 80^\circ = \frac{9}{4}$$

別解  $\sin^2 \theta = \frac{1 - \cos 2\theta}{2}$  および  $\sin 60^\circ = \frac{\sqrt{3}}{2}$  により

$$\begin{aligned} &\sin^2 20^\circ + \sin^2 40^\circ + \sin^2 60^\circ + \sin^2 80^\circ \\ &= \frac{9}{4} - \frac{\cos 40^\circ + \cos 80^\circ + \cos 160^\circ}{2} \end{aligned}$$

方程式  $\cos 3\theta + \frac{1}{2} = 0$  ( $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ ) の解は  $\theta = 40^\circ, 80^\circ, 160^\circ$

ここで,  $\cos 3\theta = 4\cos^3 \theta - 3\cos \theta$  であるから, 方程式

$$4\cos^3 \theta - 3\cos \theta + \frac{1}{2} = 0 \quad (0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ)$$

の解と係数の関係により  $\cos 40^\circ + \cos 80^\circ + \cos 160^\circ = 0$

$$\text{よって} \quad \sin^2 20^\circ + \sin^2 40^\circ + \sin^2 60^\circ + \sin^2 80^\circ = \frac{9}{4}$$

補足 また, 解と係数の関係により  $\cos 40^\circ \cos 80^\circ \cos 160^\circ = -\frac{1}{8}$

参考  $\theta = \frac{\pi}{n}$ ,  $\alpha = \cos 2\theta + i \sin 2\theta$  とおくと

$$z^n - 1 = (z - 1) \prod_{k=1}^{n-1} (z - \alpha^k)$$

また  $z^n - 1 = (z - 1) \sum_{k=1}^n z^{n-k}$  ゆえに  $\prod_{k=1}^{n-1} (z - \alpha^k) = \sum_{k=1}^n z^{n-k} \dots (*)$

(\*) は,  $z$  に関する恒等式であるから,  $z = 1$  を代入すると

$$\begin{aligned} (\text{左辺}) &= \prod_{k=1}^{n-1} (1 - \cos 2k\theta - i \sin 2k\theta) = \prod_{k=1}^{n-1} (2 \sin^2 k\theta - 2i \sin k\theta \cos k\theta) \\ &= 2^{n-1} \prod_{k=1}^{n-1} \sin k\theta \prod_{k=1}^{n-1} (\sin k\theta - i \cos k\theta) \\ &= 2^{n-1} \prod_{k=1}^{n-1} \sin k\theta \prod_{k=1}^{n-1} \left\{ \cos \left( \frac{\pi}{2} - k\theta \right) - i \sin \left( \frac{\pi}{2} - k\theta \right) \right\} \\ &= 2^{n-1} \prod_{k=1}^{n-1} \sin k\theta \times (\cos 0 - i \sin 0) = 2^{n-1} \prod_{k=1}^{n-1} \sin k\theta \end{aligned}$$

$$(\text{右辺}) = n$$

よって  $\prod_{k=1}^{n-1} \sin \frac{k\pi}{n} = \frac{n}{2^{n-1}}$

たとえば,  $n = 9$  のとき  $\prod_{k=1}^8 \sin \frac{k\pi}{9} = \frac{9}{256}$

したがって  $\sin 20^\circ \sin 40^\circ \sin 60^\circ \sin 80^\circ = \frac{3}{16} \dots \textcircled{1}$

同様に,  $n = 18$  のとき  $\prod_{k=1}^{17} \sin \frac{k\pi}{18} = \frac{9}{2^{16}}$

したがって  $\sin 10^\circ \sin 20^\circ \sin 30^\circ \dots \sin 80^\circ = \frac{3}{256} \dots \textcircled{2}$

さらに,  $\textcircled{1}$ ,  $\textcircled{2}$  から  $\sin 10^\circ \sin 30^\circ \sin 50^\circ \sin 70^\circ = \frac{1}{16}$